

FLEXera™

# システム要件および互換性

FlexNet Manager Suite 2022 R1



# 目次

1. はじめに.....	5
ハードウェア要件.....	5
前提条件ソフトウェア.....	7
ネットワーク要件.....	18
その他の製品との互換性.....	20
2. インストールおよびアップグレードについてのアドバイス.....	25
3. ドキュメント.....	26
4. その他の情報.....	27
5. 法的情報.....	28

## 1

## はじめに

FlexNet Manager Suite は、17,500 社を超えるソフトウェアメーカー、および 300,000 以上のアプリケーションに対するソフトウェア資産、ハードウェア資産、およびエンタープライズ契約の管理を行います。インストール済みのソフトウェア、アプリケーションの使用率、購入に関する情報をレポートし、またこれらを照合してライセンス ポジションを提供します。

仮想環境および Oracle データベースのインベントリを行い、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM)、および構成可能なアダプターを使って、その他のインベントリ ツールからインベントリをインポートし、エンタープライズ リソース プランニング (ERP)、人事 (HR)、Active Directory (Ad)、および発注 (PO) システムとシームレスに統合します。1,380,000 以上の製品 SKU 番号 (Stock Keeping Unit) を含むビルトイン ライブラリを使って、購入とインベントリを自動照合し、最新のライセンス モデルもサポートする FlexNet Manager Suite を活用することで、エンタープライズ内のソフトウェア資産運用を把握すると共に、ソフトウェア支出の最適化を図ることができます。

このドキュメントには、次を含む FlexNet Manager Suite についての情報が掲載されています:

- FlexNet Manager for Clients
- FlexNet Manager for Datacenters
- FlexNet Manager for SAP Applications
- Service Life Data Pack.

公開済みシステム要件情報は、英語版、フランス語版、ドイツ語版、日本語版、およびスペイン語版をご利用いただけます。

## ハードウェア要件

次のテーブルでは、アプリケーション サーバーおよびデータベース サーバーのハードウェア要件が、FlexNet Manager Suite 2022 R1 インストール内の指定されたレコード数 (たとえばオペレーター、デバイス、およびソフトウェア ライセンス) に基づいて説明されています。インベントリ ビーコン および FlexNet インベントリ エージェント の展開先となるターゲット インベントリ デバイスの要件も記述されています。

### アプリケーション サーバー

分類	要件
プロセッサ	4 コア (オペレーターが 100 人以上の場合は 8 コアまで)

分類	要件
メモリ	8 GB
システムドライブ	60 GB これには、ARL、PURLs、SKU ライブラリ、および EOSL に使用される DataImport フォルダー用の許容量 8 GB を含みます。

## データベース サーバー

分類	要件
プロセッサ	オペレーター 100 人につき 4 コア
SQL Server で使用可能なメモリ	デバイス 50,000 台につき 16 GB
システムドライブ	40 GB
データドライブ (シンプルなデータベース回復モデルに基づく、標準的なサイズ)	コンプライアンス データベース データ 10,000 デバイスごと: 初年度 25 GB + 15 GB 追加/年
	コンプライアンス データベース ログ デバイス 10,000 台につき 20 GB
	インベントリ データベース データ デバイス 10,000 台につき 20 GB (FlexNet インベントリ使用)
	インベントリ データベース ログ デバイス 10,000 台につき 10 GB (FlexNet インベントリ使用)
	レポート スナップショット データベース データ 10 GB
	レポート スナップショット データベース ログ 10 GB
	データ ウェアハウス データベース データ 1,000 ライセンスごとに 20 GB
	データ ウェアハウス データベース ログ 20 GB
	tempdb データ デバイス 10,000 台につき 5 GB
	tempdb ログ デバイス 10,000 台につき 1 GB
	Cognos コンテンツ ストア データ + ログ 1 GB
<b>合計</b>	デバイス 10,000 台につき 60 GB + 80 GB

分類	要件
年間増加率	デバイス 10,000 台につき 15 GB

### Flexera Analytics (Cognos) Server

分類	要件
プロセッサ	4 コア
メモリ	16 GB + 推奨
システムドライブ	100 GB

### FlexNet Beacon


分類	要件
プロセッサ	2 コア
メモリ	最小 4GB、8 GB 以上推奨
最小空きディスク領域	デバイス 10,000 台につき 1 GB

### FlexNet インベントリ エージェント

分類	要件
プロセッサ	1 コア
メモリ	最小 512 MB、2 GB 以上推奨
最小空きディスク領域	25 MB インストール + 100 MB ワークスペース

## 前提条件ソフトウェア

FlexNet Manager Suite 2022 R1 リリース時にサポート対象のオペレーティング システムおよびソフトウェア前提条件は次の通りです。別途記載が無い限り、リリースのサポートには、同じリリースに対してリリースされるすべての公式サービス パックのサポートも含まれます。

コンポーネント	オペレーティング システム	前提条件ソフトウェア
アプリケーション サーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows Server 2012</li> <li>・ Windows Server 2012 R2</li> <li>・ Windows Server 2016</li> <li>・ Windows Server 2019</li> <li>・ Windows Server 2022</li> </ul>	<p>次の 3 つの前提条件は、マルチサーバー実装の各サーバーに適用します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft .NET Framework 4.7.2-4.8 (ASP.NET の登録は、<i>Installation</i> または <i>Upgrading PDF</i> ファイルの「<i>Configure .NET and IIS</i>」セクションに記載されています)</li> <li>・ Microsoft Internet Information Services 8.0-10.0</li> <li>・ Microsoft Message Queuing (MSMQ)</li> </ul> <p>次の追加前提条件は、バッチ サーバーコンポーネントがインストールされている場合のみ適用します。</p> <hr/> <p> <b>重要:</b> 環境内には、必ず 1 つだけ バッチ サーバー が必要です。バッチ サーバー は独自のサーバーにインストール、または Web アプリケーション サーバー あるいはインベントリ サーバーのどちらかに並置することができます。またはすべてのコンポーネントを単一の アプリケーション サーバー にインストールすることも可能です。バッチ サーバー がインストールされている時は常に次の前提条件が適用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Access Database Engine (32 ビット)</li> <li>・ SQL Server 機能: クライアント ツール接続、管理ツール</li> </ul> <hr/> <p> <b>メモ:</b> Microsoft Windows Server Core のエディションはサポートされていません。</p>

- データベースサーバー (Cognos データベースサーバーを含む)
- ・ Windows Server 2012
- ・ Windows Server 2012 R2
- ・ Windows Server 2016
- ・ Windows Server 2019
- ・ Windows Server 2022
- ・ Amazon RDS for SQL Server



**メモ:** これらの最初の説明は次の Microsoft SQL Server バージョンに適用します (バージョン固有の詳細は下を参照):

- ・ Microsoft SQL CLR (共通言語 ランタイム)統合を有効にする必要があります。FlexNet Manager Suite は、SAFE アクセス許可セットと共に、署名済み CLR アセンブリを使用します。Microsoft SQL Server 2017 以降の場合、このアセンブリの作成および実行には通常、適切な証明書を使った SQL Server ログインの構成、およびログインのための UNSAFE ASSEMBLY 権限の付与が必要です。サポートされているもう一つの構成は、コンプライアンス データベースの TRUSTWORTHY データベース プロパティを [ON] に設定するか、CLR の厳密なセキュリティを無効化する方法です。
- ・ マルチテナント インストールには、SQL Server Enterprise Edition が必要。シングルテナント インストールには、任意の SQL Server エディションを使用可能。
- ・ Flexera Analytics を使用するには、Microsoft SQL Server で TCP/IP プロトコルが有効化されていること、またデータベース サーバーと通信するためのネットワーク アクセス許可が必要です (ファイアウォールによる制限がないことを確認してください)。
- ・ Amazon RDS は、SQL Server 2016 SP1 & SP2 に制限されています。
- ・ Microsoft SQL Server 2012
- ・ Microsoft SQL Server 2014



**メモ:** 互換性レベル SQL Server 2012 (110) に設定して実行。

- ・ Microsoft SQL Server 2016 SP1



**メモ:** このアップデートによって致命的なエラーが修復されているため、必ず SP1 以上を適用してください。互換性レベル SQL Server 2012 (110) に設定して実行。

- ・ Microsoft SQL Server 2017
- ・ Microsoft SQL Server 2019



**メモ:** 3 つの確認事項:

1. SQL Server 2019 の累積更新プログラム 5 以降

がインストール済みであることを確認してください。

2. FlexNet Manager Suite は SQL Server 2019 から導入されたメモリ最適化テーブル機能との互換性を持たない SQL CLR を使用するため、次のどちらかのプロセスで TempDB\_Metadata を無効化してから SQL Server を再開してください。

```
ALTER SERVER CONFIGURATION
SET MEMORY_OPTIMIZED
TEMPDB_METADATA = OFF
GO
```

または

```
EXEC sp_configure 'tempdb metadata memory-
optimized', 0
GO
RECONFIGURE
GO
```

3. SQL Server 2019 で、Microsoft が Intelligent Query Processing に変更を追加しましたが、それにもなって Web インターフェイス (たとえば [すべての購入] ページ) でエラーが発生する可能性があります。FlexNet Manager Suite のコンプライアンス データベース で、2 つのエラー回避方法があります:
  - a. 次の 6 つの Intelligent Query Optimizer コンポーネントを無効化する (この [Microsoft トピック](#) で説明されています):

```
ALTER DATABASE SCOPED
CONFIGURATION
SET
BATCH_MODE_MEMORY_GRANT_FEEDBACK
= OFF;
ALTER DATABASE SCOPED
CONFIGURATION
SET
ROW_MODE_MEMORY_GRANT_FEEDBACK =
OFF;
ALTER DATABASE SCOPED
CONFIGURATION
SET INTERLEAVED_EXECUTION_TVF =
OFF;
ALTER DATABASE SCOPED
```



```

CONFIGURATION
    SET DEFERRED_COMPILATION_TV =
OFF;
ALTER DATABASE SCOPED
CONFIGURATION
    SET TSQL_SCALAR_UDF_INLINING = OFF;
ALTER DATABASE SCOPED
CONFIGURATION
    SET BATCH_MODE_ON_ROWSTORE =
OFF;

```

または

- b. 互換性レベル SQL Server 2017 (140) に設定して実行。

- ・ Microsoft SQL Server クライアント ツール (同一バージョン)

- Flexera  
Analytics /  
Cognos  
Server
- ・ Windows Server 2012
  - ・ Windows Server 2012 R2
  - ・ Windows Server 2016
  - ・ Windows Server 2019



**メモ:**

Flexera  
Analytics  
サーバー  
は、マル  
チテナント  
インストー  
ルでサポ  
ートされて  
います  
ん。



**重要:** コンテンツ ストア データベースを実行中のデータベースサーバー以外に Flexera Analytics がインストールされている場合、Flexera Analytics ホストとデータベースサーバー間のコミュニケーションを有効化する必要があります:

- ・ SQL Server 2017 以降の場合、ホスト上に Microsoft OLE DB Driver for SQL Server をインストールしてください。
- ・ SQL Server 2012 から 2016 の場合、Flexera Analytics をホスト中のサーバーに Microsoft SQL Server Native Client 2012 をインストールします (この Native Client の 2012 バージョンは、リモート データベースが前述の通り正しい互換モードが設定されている SQL Server 2016 SP1 の場合、正しく相互運用します)。

コンポーネント	オペレーティング システム	前提条件ソフトウェア
Web ブラウザ ー	<p>現在サポートされている、良く使われている Web ブラウザーの最小バージョン:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ Microsoft Internet Explorer 11</li><li>・ Microsoft Edge for Windows 84</li><li>・ Google Chrome 80</li><li>・ Mozilla Firefox 79</li><li>・ Apple Safari 13.</li></ul> <p>Flexera Analytics メニュー オプションの一部は、Chrome ブラウザーで利用できません。</p> <p>Web ブラウザー リリースのサポートを検証することはできませんが、現時点で、将来的なリリースに問題は確認されていません。</p>	<p>Flexera Analytics は、Microsoft Edge との互換性がありません。</p> <p>最小スクリーン解像度 1024 (水平方向のピクセル) が必要です。</p>

## コンポーネント オペレーティング システム 前提条件ソフトウェア

- FlexNet インベントリ エージェント
- Windows Server 2003 SP1 および SP2、2008 R2 x64、2012、2012 R2、2012 R2 SP1、2016、2019、2022
  - Windows Server Core 2008、2008 R2 x64、2012、2012 R2
  - Windows Server Standard (旧 Windows Server Core) 2016、2019
  - Windows Vista x64、7 x64、8 x64、10 x64
  - Windows Vista、7、8、10、11
  - AIX 7.1 LPARs、7.2
  - Amazon Linux 2
  - CentOS (x86、32 ビットおよび 64 ビット): 6-7.5、(x86 64 ビットのみ): 7.6-7.9 (古いバージョン); 8.0-8.4 (新しいバージョン)
  - Debian Linux 7-11 (x86 32 ビットおよび 64 ビット)

前提条件なし



**メモ:** Linux プラットフォームについて、FlexNet インベントリ エージェント では Intel (32 ビットおよび 64 ビット) アーキテクチャ上で実行中であるすべてのオペレーティング システムがサポートされています。さらに、次のリトルエンディアン OS リリース (ppc64le) は、glibc バージョン 2.17 以降をサポートする POWER8 または新しい POWER プロセッサでサポートされています。

- CentOS 7.4 以降
- Debian 8 以降
- Fedora 21 以降
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.4 以降
- SuSE 12 以降
- Ubuntu 14.04 以降

POWER マイクロプロセッサは、リトルエンディアン ビルド (ppc64le) にサポートが制限されていますが、FlexNet インベントリ エージェント はリトル エンディアン (ppc64) ディストリビューションでは実行しません。ppc64le ビルドを含まないディストリビューションは、POWER マイクロプロセッサでサポートされておらず、サポートされていないディストリビューションには、Amazon Linux、Oracle Linux、および Photon OS が含まれません (ただし、一覧されている Intel アーキテクチャで引き続きサポートされています)。



**メモ:** Debian Linux 9.4 および 10 (32 ビットおよび 64 ビット) の場合、必要最小限 OS コアのインストールは `ifconfig` コマンドを省略します。これによって、インベントリで IP アドレスおよび MAC アドレスの収集が阻止されます。`root` ユーザーは、次のコマンドを使ってこの機能を復元できます:

```
apt-get install
net-tools -y
```

- Fedora Linux 25-30 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)、27-34 (x86 64 ビットのみ)
- HP-UX 11i v3、vPars/nPars
- macOS 10.6-12



**メモ:** Apple M1 プロセッサ (Apple シリコン) を使用する場合、FlexNet インベントリ エージェントには Rosetta 2 がインストール済みおよび実行中でなくてはなりません。これが、ほとんどの Intel ベースのアプリケーションを Apple シリコン上で実行するための移行ソリューションです。Rosetta 2 のインストールには、2 つのコマンド形式があります:

- Rosetta 2 ライセンスの同意を求めるインタラクティブなインストール:

```
/usr/sbin/  
softwareupdate  
--install-  
rosetta
```

- 非インタラクティブなインストール:

```
/usr/sbin/  
softwareupdate  
--install-  
rosetta --agree-  
to-license
```

- OpenSUSE Leap 42.2、42.3 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)、15-15.3 (x86、64 ビット)

## コンポーネント オペレーティング システム 前提条件ソフトウェア

のみ)

- Oracle Linux 4.5–6.10 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)、7.0–8.4 (x86 64 ビットのみ)
  - Photon OS 3.0–4.0
  - Red Hat Enterprise Linux (RHEL) (x86、32 ビットおよび 64 ビット) 5.0–6.10、(x86 64 ビットのみ) 7.0–7.9 (古いバージョン)、8.0–8.4 (新しいバージョン)
  - Red Hat Linux 8–9 (x86 のみ)
  - Solaris 8–11.4 (SPARC)、Zones バージョン 10 –11
  - Solaris 9–11.4 (x86)、Zones バージョン 10 –11
  - SuSE Linux Enterprise Server 11 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)。12 SP3、12 SP4、12 SP5、15、15 SP1、15.2、15.3 (x86 64 ビットのみ)
  - buntu 12–17.04 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)、17.10–21.04 (x86 64 ビットのみ)
-

コンポーネント	オペレーティング システム	前提条件ソフトウェア
Flexera の Kubernetes イ ンベントリ エ ージェント	・ Linux x86_64	次の Kubernetes の実装がサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ Kubernetes 1.16-1.20</li><li>・ Amazon EKS</li><li>・ Azure AKS</li><li>・ kind (Kubernetes in Docker)</li><li>・ Minikube</li><li>・ OKD 4.x</li><li>・ Red Hat OpenShift 4.x.</li></ul>

---

コンポーネント	オペレーティング システム	前提条件ソフトウェア
FlexNet Beacon	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows Server 2012、2012 R2、2016、2019、2022</li> <li>・ Windows 8 x64、10 x64</li> <li>・ Window 8、10</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ .NET Framework バージョン 4.7.2-4.8</li> <li>・ 任意のサポート対象 Web ブラウザー</li> <li>・ Oracle データベース インベントリの場合、Oracle OLE DB Provider (32 ビット)、バージョン 10.2.0.3 以降</li> <li>・ DB2 データベース、IBM OLE DB Provider (32 ビットまたは 64 ビット) からデータをインポートするための接続ドライバーが 32 または 64 ビットのどちらであるかは、オペレーティング システムによって決まり、64 ビットのオペレーティング システムでは、64 ビットドライバーが必要です。</li> <li>・ PowerShell 3.0+</li> <li>・ AWS への接続には、AWS Tools for PowerShell バージョン 3.3.283.0 以降も必要です。</li> <li>・ Microsoft Azure への接続には、PowerShell version 5.1 以降、並びに Microsoft Az モジュール バージョン 6.1.0 および Microsoft Azure Resource Graph モジュール バージョン 0.11 以降が推奨されます。</li> </ul> <hr/> <p data-bbox="730 1008 1383 1092">💡 ヒント: Azure モジュールの古いバージョンを引き続き使用することができますが、使用可能な機能が制限されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 元の Microsoft Azure Resource Manager モジュール (バージョン 6.8.1 以降) を引き続き使用することができますが、Azure Hybrid Benefit データの収集を行わないことが前提で、改良されたパフォーマンスを活用することもできません (ライフサイクル終了日が近づいている点にもご注意ください)。</li> <li>◦ Azure ハイブリッド特典データの収集には、新しい Microsoft Az モジュール (バージョン 5.2.0 以降) が必要です。</li> <li>◦ Azure 内で大規模な実装を行っているエンタープライズでは特に、パフォーマンスのさらなる向上のため、Microsoft Az モジュール (バージョン 6.1.0 以降) および Microsoft Azure Resource Graph モデル (バージョン 0.11 以降) の組み合わせが推奨されます。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Office 365 Online Service への接続には、次も必要です: <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 64 ビット サーバー オペレーティング システム</li> <li>◦ PowerShell 5.1 以降。</li> </ul> </li> </ul>



メモ: 推奨されている **Microsoft 365** コネクタではなく、**Microsoft Office 365 (非推奨)** コネクタを使用する場合、追加の前提条件があります。これらの追加前提条件についての詳細は、[このガイド](#) を参照してください。

- ・ Tanium Asset への接続には、次が必要です:
  - Tanium Server バージョン 7.3.314.3668
  - Windows Server 2012 以降、または Windows 7 SP1 以降で実行中の PowerShell バージョン 5.1 以降

FlexNet Manager for SAP Applications – Admin Module Transport	・ SAP Basis リリース 7.0 から 7.53	SAP リリースに一致する SAP GUI をインストールする必要があります。
FlexNet Manager for SAP Applications – Satellite Transport	・ SAP Basis リリース 4.6C から 7.53	前提条件なし

## ネットワーク要件




**重要:** FlexNet Manager Suite の Web インターフェイス プレゼンテーション サーバーが、セキュリティ ベストプラクティスと一貫された HSTS ヘッダー (HTTP Strict Transport Security) を発行します。これに伴う影響:

- ・ 証明書エラー無しで HTTPS プロトコルを使ってプレゼンテーション サーバーへのアクセスが正しく行われると、クライアント Web ブラウザーで今後行われるすべてのコミュニケーションに対して HTTPS が強制されます。(たとえば、HTTP プロトコルを使って入力されたすべての URL が自動的に修正されます。)このため、将来的に証明書エラーが発生した場合、サーバーへの代替アクセスが無い場合、すべてのセキュリティ証明書が常に最新の状態である必要があります。
- ・ プレゼンテーション サーバーへのアクセス時に HTTP プロトコルのみを使用する場合、引き続き何ら影響なくアクセスを行うことができます。構成の一例として、たとえばブラウザーが本番サーバーへのアクセスに HTTPS プロトコルを使用し、露出度が低いネットワーク上にあるテスト サーバーへのアクセスには HTTP のみの使用を許可する場合があります。HSTS ヘッダーが配置されていれば、両方の環境で機能します。



## 全般設定

分類	要件	メモ
Internet Protocolバージョン	IPv4、IPv6 およびデュアル スタック	<p>リモート実行 (たとえば、リモート検出およびインベントリの収集) には IPv4 が必要です。</p> <p>クラウド上の FlexNet Manager Suite およびトップ階層のインベントリ ビーコン サーバー間のコミュニケーションには IPv4 が必要です。</p> <p>Microsoft CAL デバイス ライセンスの計算には、CAL エビデンスの収集およびコンピューター インベントリに IPv4 が必要です。</p>
ライブラリ ダウンロード	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ARL: https://www.managesoft.com:443/support/Compliance/RecognitionAfter82.cab</li> <li>• EOSL ライブラリ: https://www.managesoft.com:443/support/Compliance/EOSL.cab</li> <li>• SKU ライブラリ: https://www.managesoft.com:443/support/Compliance/PURL.cab</li> <li>• PURL: https://update.managesoft.com:443/ProductUseRights。初回リクエストへの応答でサーバーに返される、このディレクトリのサブディレクトリへのアクセスを含みます。</li> </ul>	<p>アプリケーション サーバー (またはマルチサーバー実装の場合、バッチ サーバー) には、ライセンスによってエンタイトルメントが発生するデータ ライブラリの定期アップデートのダウンロード用に表示される URL へのアクセスが必要です。さらに、そのサーバーがプロキシ サーバーによってインターネットから保護されている場合、同じ URL へのアクセスには、プロキシ サーバーによる認証が必要です。</p>
ポート	中央 アプリケーション サーバー へのアクセスには、最低 80 (HTTP の場合) または 443 (HTTPS の場合) が必要です。	<p> <b>メモ:</b> その他のオプション インベントリソースには、追加ポートが必要です。詳細については、オンラインヘルプの「Ports and URLs for インベントリ ビーコンs」を参照してください。</p>

分類	要件	メモ
Transport Layer Security (TLS)	1.1、1.2	インベントリ ビーコン および アプリケーション サーバー との間のコミュニケーションには TLS 1.1 または 1.2 (推奨) が必要です。アプリケーション サーバー および Flexera Analytics サーバー (Cognos で稼働) 間のコミュニケーションで、標準構成による TLS 1.2 はサポートされていません。ナレッジベース記事「 <a href="#">Flexera Analytics connection to SQL Server Fails When Server is Configured to use TLS 1.2 (サーバーで TLS 1.2 の使用が構成されている場合に起きる Flexera Analytics による SQL Server への接続エラー)</a> 」を参照してください。

## その他の製品との互換性

このセクションでは、リリース時における FlexNet Manager Suite 2022 R1 およびその他の製品との互換性について説明します。

### 同一サーバー上にインストール

次の表に、FlexNet Manager Suite 2022 R1 アプリケーション サーバーと同じサーバー上にインストールされた、サポート対象コンポーネントの一覧が表示されます。


コンポーネント	FlexNet Manager Suite 2022 R1 と同一サーバー上にインストール可能なバージョン
FlexNet インベントリ エージェント	2022 R1
FlexNet Beacon	2022 R1
Flexera Analytics	2022 R1

### その他の製品との統合

FlexNet Manager Suite は、次の製品およびコンポーネントとの統合が可能です。サードパーティ製品のサポートは、元のソフトウェアベンダーが宣言しているサポート日に基づきます。その環境が元のソフトウェア製作者によるサポートを終了している場合、Flexera は「現状のまま」サポートを提供します。つまり、任意の欠陥修正または強化の責任は持ちませんが、問題のトラブルシューティングを行います。この表は、現在サポートされているバージョンの詳細です:


製品/コンポーネント	インポートがサポートされているバージョン
App Portal (名前変更前)	2013 R2-2015 R2 SP5
App Portal / App Broker (名前変更後)	2016 R1-2019 R1

製品/コンポーネント	インポートがサポートされているバージョン
Flexera Normalize (Data Platform)	5.0-5.5
BMC Atrium	BMC Atrium CMDB バージョン 8.1 から 20.02 (Atrium Integrator バージョン 8.1 から 9.1.10 を含む)。BMC Atrium サーバーは Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行する必要があります、
BMC BladeLogic Client Automation (旧 Marimba)	8.2
BMC Discovery (旧 ADDM)	9.0、10.0-10.2 (ADDM)、11.0-21.05 (12.2)
BMC Remedy ITSM	7.6.04 SP4-9.1
Citrix Virtual Apps サーバー(旧 XenApp サーバー)	6.0、6.5、7.5-7.9、7.11-7.17 (XenApp)、7.1808-7.2112 (Citrix Virtual Apps)
Citrix Virtual Desktops (旧 Citrix XenDesktop)	5.6、6.0、6.5、7.5-7.9、7.11-7.17 (XenDesktop)、7.1808-7.2112 (Virtual Desktops)
CyberArk	9.8、11.7、12
Docker	1.13、17.03-19.03 (64 ビット Linux のみ)
EdgeSight for Citrix Virtual Apps (旧 XenApp EdgeSight)	5.4、7.6、7.14-7.16 (Platinum ライセンス要)、7.17 (XenApp)、7.1808-7.2003 (Citrix Virtual Apps)
FlexNet Manager for Engineering Applications	15.5、2016 R1-2019 R2
HP Discovery および Dependency Mapping Inventory (DDMI)	9.3
HPE Universal Discovery (HP-UD)	10.10、10.11、10.33-11.5、2020.05、20.08、20.11、21.05
Microsoft SQL Server 上の IBM BigFix プラットフォーム (以前の名称は Tivoli Endpoint Manager および IBM BigFix)	8.2-10.0.2.52

 **ヒント:** 個別の BigFix 製品と混同しないようにしてください。HCL BigFix Platform (通常「BigFix」または Platform と呼ばれます) および HCL BigFix Inventory は個別のものです。IBM HCLBigFix が唯一の BigFix 製品である場合、ここからインベントリをインポートすることが可能です。しかし、HCL BigFix Inventory も搭載している場合、通常インベントリのインポートは HCL BigFix Inventory からのみ必要です (下を参照)。(HCL は 2018 年 12 月に IBM から BigFix ファミリーを買収しました。)

製品/コンポーネント	インポートがサポートされているバージョン
IBM License Metric Tool (ILMT) または HCL BigFix Inventory (IBM DB2 上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IBM DB2 上の HCL BigFix Inventory: <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 以前は IBM Software Usage Analysis (SUA) と呼ばれ、SUA (IBM DB2 上) はバージョン 9.0、9.1 でサポートされています。</li> <li>◦ ブランド再構築が行われた 9.2.1 から、IBM DB2 上の IBM BigFix Inventory はバージョン 9.2.5–9.2.26 でサポートされています。</li> <li>◦ 2018 年 12 月に、HCL が IBM から買収しました。</li> </ul> </li> <li>・ IBM License Metric Tool (ILMT) (IBM DB2 上) は、バージョン 9.2.5–9.2.26 でサポートされています。</li> </ul>
IBM License Metric Tool (ILMT) または Microsoft SQL Server 上の HCL BigFix Inventory	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft SQL Server 上の BigFix Inventory: (IBM) 9.2.5–9.2.23、(HCL) 10.0.0–10.0.6</li> <li>・ Microsoft SQL Server 上の IBM License Metric Tool (ILMT): 9.2.5–9.2.24</li> </ul>
IBM Passport Advantage	2014 年 11 月現在
Linux KVM	<p>サポート対象システム:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CentOS 6+ (x86 64 ビットのみ)</li> <li>・ Oracle Linux 4.5–6.10 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)、7.0–8.4 (x86 64 ビットのみ)</li> <li>・ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.1–5.3 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)、5.4+ (x86 64 ビットのみ)</li> <li>・ SuSE Linux Enterprise Server 11 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)。12 SP3、12 SP4、12 SP5、15、15 SP1、15.2、15.3 (x86 64 ビットのみ)</li> </ul>
	 <b>メモ:</b> Linux KVM には、FlexNet Beacon 2019 R2 (14.0) 以降が必要です。
Microsoft App-V Integration Server	4.6、5.0、5.1.85–5.1.134
Microsoft Exchange ActiveSync	2010–2013

製品/コンポーネント	インポートがサポートされているバージョン
Microsoft Hyper-V	<p>実行プラットフォーム:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2008 x64</li> <li>Windows Server 2008 x64 Server Core</li> <li>Windows Server 2008 R2 x64</li> <li>Windows Server 2008 R2 x64 Server Core</li> <li>Windows Server 2012</li> <li>Windows Server 2012 R2</li> <li>Windows Server 2016</li> <li>Windows Server 2019</li> </ul>
Microsoft SCCM (旧 SMS)	2007、2012、2012 R2、1511-1906、1910、2002、2006、2010、2103、2107、2111
Oracle Database	8i、9i、10g、11g、11g リリース 2、12c、12c、18c、19c、21c
	<p> <b>メモ:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8i – ダイレクト インベントリ ビーコン 接続が必要</li> <li>9i – Windows の名前付きアカウントまたはダイレクト インベントリ ビーコン 接続が必要</li> <li>12c – ローカル エージェントを使用する Oracle Multitenant オプションはサポートされていません</li> </ul>
Oracle Enterprise Manager	12.1-13.5
Oracle VM Server for x86	3.2-3.4.6.3
ServiceNow	サポートされているバージョンについては、ServiceNow Store で「Flexera」を検索してください。
	<p> <b>メモ:</b> ServiceNow で、<a href="#">Transport Layer Security (TLS)</a> の古いバージョンは使用できません。バージョン 1.2 が必要です。</p>
Symantec IT Management Suite (旧 Altiris)	6.5、7.1、7.5
Tanium Asset	1.8.0.0075 – 1.17.155
	<p> <b>メモ:</b> FlexNet Manager Suite 2020 R1.1 以降に同梱されている Tanium アダプターが必要です。</p>
Tanium Server	7.3.314.3668

製品/コンポーネント	インポートがサポートされているバージョン
VMware vSphere/vCenter/ESXi	5.0-6.7 u3b、7
	 <b>メモ:</b> ESXi の無償ライセンス バージョンで、リモート インベントリを行うことはできません。
Workflow Manager	2014-2016

## インベントリ コンポーネント

次の表には、FlexNet Manager Suite 2022 R1 で管理可能な FlexNet Beacon および FlexNet インベントリ エージェント バージョンが一覧で表示されます。

コンポーネント	互換性のあるバージョン
FlexNet インベントリ エージェント (Windows)	8.5-9.2、2014-2022 R1
FlexNet インベントリ エージェント (Linux)	 <b>メモ:</b> 以前のバージョンは、スケジュールに基づいてデフォルト ポリシーを受け取り、インベントリを収集する機能の面で互換性を持ちます。より新しい、次のようなエージェント機能はサポートされていません: <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Internet Protocol バージョン 6 (IPv6)</li> <li>・ (.Ini ファイルおよびレジストリ コントロールではなく) UI 設定を使った使用率追跡の制御 (2014 (R1) より)</li> <li>・ IP アドレスがターゲットとする設定 (2014 (R1) より)</li> <li>・ CAL インベントリ (2016 R1)</li> </ul>
FlexNet インベントリ エージェント (Solaris)	
FlexNet インベントリ エージェント (Mac OS X)	
FlexNet インベントリ エージェント (AIX)	
FlexNet インベントリ エージェント (HP-UX)	
Citrix XenApp サーバー エージェント	
FlexNet Beacon	2017 R2-2022 R1
	 <b>ヒント:</b> このリリースで古い インベントリ ビーコン も引き続き機能しますが、Flexera は少なくとも表示されている範囲までアップデートすることを強く推奨します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AWS EC2 コネクタには FlexNet Beacon 2018 R2 (13.1.0) 以降が必要です。</li> <li>・ Citrix XenApp インベントリには FlexNet Beacon 2014 R2 以降が必要です。</li> <li>・ Linux KVM には、FlexNet Beacon 2019 R2 (14.0) 以降が必要です。</li> <li>・ Linux KVM には、FlexNet Beacon 2019 R2 (14.0) 以降が必要です。</li> </ul>

## 2

# インストールおよびアップグレードについてのアドバイス

FlexNet Manager Suite リリース 2017 R1 以降からオンプレミス実装をアップグレードする場合、(下の一覧からアップグレードドキュメントを使って) 通常のアップグレード手順に従ってください。

以前の任意のリリース (2014 - 2016 R2) からアップグレードする場合、確実にすべてのコンポーネントをアップグレードしてください:

- ・ アプリケーション サーバー (オンプレミス実装の場合、通常のアップグレード手順を使用)
- ・ フル FlexNet インベントリ エージェント、簡易 FlexNet Inventory Scanner、およびすべてのインストール場所にある FlexNet コア インベントリ コンポーネントを含むすべての FlexNet インベントリ ツール
- ・ 全てのインベントリ ビーコンにインストールされているFlexNet Beacon

この推奨は、2017 R1 以降のバージョンでリリースされたすべてのコンポーネントに関係する継続的なセキュリティ保護の強化に基づくものです。

FlexNet Manager Suite の現在のリリースのインストールおよびアップグレード手順をオンプレミス カスタマー向けに説明する 4 つのドキュメントがあります。

- ・ *FlexNet Manager Suite 2022 R1 On-Premises* のインストールFlexera Analytics をインストールするオプションを含みません。
- ・ Installing FlexNet Manager Suite 2022 R1 for a Managed Service (英語のみ)
- ・ Upgrading FlexNet Manager Suite from 2014 Rx to 2022 R1 On -Premises (英語のみ)FlexNet Manager Suite バージョン 2014 以降からのアップグレード用です。
- ・ *FlexNet Manager Suite 2022 R1* オンプレミスへの移行。FlexNet Manager Platform 9.2 から FlexNet Manager Suite 2022 R1 オンプレミスへの移行について説明されています。FlexNet Manager Platform の以前のバージョンは、この移行を開始する前に 9.2 バージョンにアップグレードする必要があります。

これらは、[製品 & ライセンス センター](#) および [Customer Community Documentation](#) サイト (英語のみ) からアクセス可能な [Installation Documentation for FlexNet Manager Suite](#) アーカイブに含まれています。これらは、オンプレミス実装のオンライン ヘルプのタイトルページからも取得できます。

## 3

## ドキュメント

FlexNet Manager Suite 2022 R1 のドキュメントは、オンライン ヘルプとして提供されています。Web ユーザー インターフェイスから、疑問符記号のアイコンをクリックしてヘルプを起動してください。追加ドキュメントは、オンライン ヘルプのタイトルページから取得することができます。オンライン ヘルプおよび追加ドキュメントは、その内容が必要に応じてカスタマイズされているため、すべてのドキュメントはオンプレミス バージョンとクラウド バージョンで異なります。オンライン ヘルプおよびその他のドキュメントには、<https://docs.flexera.com/> からアクセスできます。

ドキュメントの要素	言語
オンライン ヘルプ	英語 ドイツ語 フランス語 – FlexNet Manager for SAP Applications の機能について
追加 PDF ドキュメント	英語 ドイツ語 – FlexNet Manager for SAP Applications ユーザー ガイドおよびインストール ガイド
SLO プラクティス ガイド	英語 フランス語 Flexera ラーニング センターからご利用いただけます: <a href="https://learn.flexera.com/">https://learn.flexera.com/</a>

インストールおよびアップグレードに関する詳細は、このドキュメントの「[インストールおよびアップグレードについてのアドバイス](#)」セクションを参照してください。



## 4

## その他の情報

項目	説明
Flexera Community	コミュニティには、Flexera Knowledge Base、FlexNet Manager ブログ、ならびに製品のダウンロードが提供されています。 <a href="https://community.flexera.com">https://community.flexera.com</a>
製品ドキュメント	FlexNet Manager Suite の最新リリースのドキュメントは、Flexera ドキュメント Web サイトから利用できます。 <a href="https://docs.flexera.com">https://docs.flexera.com</a>
Flexera システム ステータス ダッシュボード	Flexera のクラウド製品についての現在のリリース状況を表示します。 <a href="https://status.flexera.com">https://status.flexera.com</a>
FlexeraWeb サイト	Flexera についての情報 <a href="https://www.flexera.com">https://www.flexera.com</a> <a href="https://www.reverera.com">https://www.reverera.com</a> - ソフトウェアおよび IoT 企業向け
Flexera ラーニング センター	FlexNet Manager Suite (およびその他の Flexera 製品) のコース開催場所およびベスト プラクティス ガイド。 <a href="#">Flexera Community</a> へのログインが必要です。 <a href="https://learn.flexera.com/">https://learn.flexera.com/</a>

# 5

## 法的情報

### 著作権情報

Copyright © 2022 Flexera.

本出版物には、Flexera およびそのライセンサーによって所有されている機密テクノロジー、情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera が所有するいかなる知的財産の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は、Flexera より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

FlexNet Manager Suite には、他の開発者によるソフトウェアが組み込まれており、ライセンス契約に従って再配布されます。外部で開発されたソフトウェアの著作権情報およびライセンスは次のリンク先に掲載されています。

### 知的財産

Flexera が所有する商標および特許の一覧は、<http://www.flexera.com/intellectual-property> を参照してください。Flexera 製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

### (米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。